



Cisco CallManager エクステンション モビリティ

Cisco CallManager エクステンション モビリティ機能を使用すると、ユーザは別の Cisco IP Phone から、ユーザの Cisco IP Phone の設定（回線の表示、サービス、および短縮ダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。

Cisco CallManager 4.0 以降では、エクステンション モビリティ機能がほとんどの Cisco IP Phone モデルに拡張されています。Cisco CallManager Administration の Device Profile Default ウィンドウを使用すると、各 Cisco IP Phone モデルで Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートするように設定できます。この設定により、特定の Cisco IP Phone モデルのユーザ デバイス プロファイルを持たないユーザが、その電話モデルで Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用できます。



(注)

Cisco CallManager エクステンション モビリティがサポートされていることを確認するには、Cisco IP Phone モデルのマニュアルを参照してください。

この章では、Cisco CallManager エクステンション モビリティの次の項目について説明します。

- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの導入 \(P.1-2\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティのシステム要件 \(P.1-8\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.1-9\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの初めてのインストール \(P.1-11\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定 \(P.1-12\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザへの情報提供 \(P.1-29\)](#)
- [関連項目 \(P.1-30\)](#)

Cisco CallManager エクステンション モビリティの導入

この項では、機能の設定およびトラブルシューティングができるように、Cisco CallManager エクステンション モビリティの理解を深めます。

- [デバイス プロファイルについて \(P.1-2\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの概要 \(P.1-3\)](#)
- [ログインおよびログアウトの動作 \(P.1-5\)](#)
- [ログインのコールフロー \(P.1-6\)](#)
- [ログアウトのコールフロー \(P.1-7\)](#)

デバイス プロファイルについて

デバイス プロファイルは、特定のデバイスの属性を定義します。デバイス プロファイルには、電話機のテンプレート、ユーザ ロケール、登録されているサービス、短縮ダイヤルなどの情報が含まれています。

デバイス プロファイルは物理的な電話機には関連付けられていません。デバイス プロファイルには、MAC アドレスやディレクトリ URL など明示的にデバイスに関するプロパティを除く、すべてのデバイス プロパティが含まれています。

デバイス プロファイルがデバイスにロードされると、そのデバイスはデバイス プロファイルの属性を取得します。

ユーザのデバイス プロファイル

システム管理者として、各ユーザのデバイス プロファイルを設定します。ユーザは、Cisco CallManager User Options ウィンドウを使用して、このプロファイルにアクセスしたり、サービスの追加などの変更を行うことができます。Cisco CallManager Administration では、ユーザのデバイス プロファイルを追加、変更、および削除できます。

Cisco CallManager エクステンション モビリティ用に設定された電話機にログインする際、その電話機用に設定されたユーザ デバイス プロファイルがユーザにある場合は、そのユーザ デバイス プロファイルによってデバイスの既存の設定が置換されます。

ユーザがログアウトすると、ユーザ デバイス プロファイルはログアウト プロファイルに置き換えられます。

自動生成されたデバイス プロファイル

自動生成されたデバイス プロファイルは、特殊なデバイス プロファイルです。Cisco CallManager エクステンション モビリティ用に電話機を設定し、Phone Configuration ウィンドウで Use Current Settings を選択すると生成されます。自動生成されたデバイス プロファイルは、生成後に特定の電話機に関連付けられ、ログアウト デバイス プロファイルになります。



(注)

ユーザ デバイス プロファイルではなく、自動生成されたデバイス プロファイルをログアウト プロファイルとして使用するよう Cisco CallManager エクステンション モビリティを設定することを強くお勧めします。

自動生成されたデバイス プロファイルをユーザに関連付けることはできません。自動生成されたデバイス プロファイルは、ログインしているユーザが存在しない場合に限り、デバイスにロードできます。

電話機に変更を加えて更新すると、その更新によって、自動生成されたデバイス プロファイルに対する修正が上書きされることがあります。

デフォルトのデバイス プロファイル

Cisco CallManager 4.0 以降では、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートさせる Cisco IP Phone モデルごとにデフォルトのデバイス プロファイルを設定できます。ユーザがユーザ デバイス プロファイルを持たない電話機モデルにログインした場合、電話機は必ずデフォルトのデバイス プロファイルを使用します。

デフォルトのデバイス プロファイルには、デバイス タイプ（電話機モデル）、ユーザ ロケール、電話機ボタンのテンプレート、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報が含まれています。

Device Profile Default Configuration ウィンドウを使用して、デフォルトのデバイス プロファイルを作成します。電話機モデルにはデバイス プロファイル デフォルトがまったくないか、1 つあります。デフォルトのデバイス プロファイルの最大数が、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機モデルの数を超えることはできません。

Cisco CallManager エクステンション モビリティの概要

Cisco CallManager エクステンション モビリティ（XML ベースの認証機能）は、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションおよび Cisco エクステンション モビリティ サービスで構成されています。EM を有効にするには、次の機能サービスを Cisco CallManager Serviceability ページで有効にする必要があります。

- Cisco エクステンション モビリティ
- Cisco CallManager Cisco IP Phone サービス

Cisco エクステンション モビリティ サービスは、Cisco Tomcat Web Service 上でアプリケーションとして動作します。Cisco CallManager エクステンション モビリティは、1 つの Cisco CallManager クラスタ内の電話機でのみ動作します。

これらのサービスは、**Cisco CallManager Serviceability > Service Activation** で有効 / 無効にすることができます。詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。



(注)

Cisco CallManager エクステンション モビリティは、1 つの Cisco CallManager クラスタ内の電話機でのみ動作します。

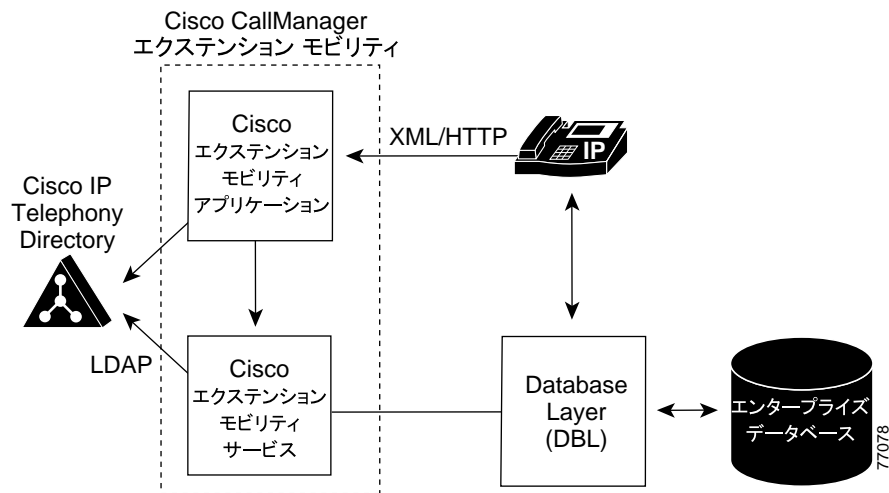
Cisco CallManager Administration を使用して、(Cisco CallManager Serviceability Administration で) Cisco エクステンション モビリティ サービスを起動し、システム内で各機能がどのように動作するかを定義し (System Parameters ウィンドウを使用)、機能をサポートする電話機モデルを定義します (Device Profile Default ウィンドウを使用)。

システム管理者として、各ユーザのデバイス プロファイルを設定します。ユーザは、Cisco CallManager User Options ウィンドウを使用して、このプロファイルにアクセスしたり、Cisco エクステンション モビリティのようなサービスの追加などの変更を行うことができます。

ユーザは、Cisco IP Phone の Services ボタンを押して Cisco CallManager エクステンション モビリティにアクセスし、Cisco CallManager UserID および Personal Identification Number (PIN) のフォームにログイン情報を入力します。ユーザに複数のユーザ デバイス プロファイルがある場合は、Cisco CallManager エクステンション モビリティで使用するデバイス プロファイルの選択を求めるプロンプトが電話機に表示されます。

ユーザがログインすると、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションはユーザ認証用の XML-over-HTTP 要求を受け取り、Cisco CallManager Directory に対して情報を確認します (図 1-1 を参照してください)。

図 1-1 Cisco CallManager エクステンション モビリティ



認証の際、ログイン プロファイルがログイン デバイスと一致すると (つまり、Cisco IP Phone Model 7960 用に設定されたユーザ デバイス プロファイルを持つユーザが Cisco IP Phone Model 7960 にログインすると)、Cisco CallManager エクステンション モビリティは Cisco CallManager 3.3 の場合と同じように動作します。

- 電話機は、個別のユーザ デバイス プロファイル情報を使用して自動的に再設定されます。
ユーザにユーザ デバイス プロファイルが 1 つある場合は、システムはこのプロファイルを使用します。ユーザ デバイス プロファイルが複数ある場合、ユーザは使用するユーザ デバイス プロファイルをリストから選択できます。
- ユーザは、デバイス プロファイルで設定したサービスをすべて使用できます。

同じユーザが設定済みのユーザ デバイス プロファイルを持たずに Cisco IP Phone モデルにログインした場合は、認証時にログイン プロファイルがログイン デバイスと一致しません。このシナリオでは、その電話機モデルのデバイス プロファイル デフォルトが電話機にロードされ、Cisco CallManager エクステンション モビリティが次のように動作します。

- システムは、デバイスに依存しない設定 (つまり、User Hold Audio Source、ユーザ ロケール、ユーザ ID、短縮ダイヤル、「line setting for this device」の設定を除く電話番号設定) をすべて、ユーザ デバイス プロファイルからログイン デバイスへコピーします。
- システムは、電話機テンプレートとソフトキー テンプレートの設定にその電話機モデルのデバイス プロファイル デフォルトを使用し、電話機がアドオン モジュールをサポートできる場合にはアドオン モジュールにもデフォルトを使用します。
- 電話機モデルが Cisco IP Phone サービスをサポートし、サービスが設定されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルからサービスがコピーされます。

たとえば、Cisco IP Phone モデル 7960 用に設定されたユーザ デバイス プロファイルを持つユーザが Cisco IP Phone モデル 7905 にログインし、デバイスのデフォルト プロファイルが電話機にロードされる場合、次のようなシナリオが発生します。

- ユーザは、保留時のオーディオ ソース、ユーザ ロケール、ユーザ ID、短縮ダイヤル、電話番号設定にアクセスできます。ユーザは自分の電話回線設定にはアクセスできません。システムは、Cisco IP Phone モデル 7905 用に設定されたデバイス プロファイル デフォルトから電話回線設定を行っています。
- ユーザは、Cisco IP Phone モデル 7905 の電話機テンプレートとソフトキー テンプレートにアクセスできます。
- Cisco IP Phone モデル 7905 はアドオン モジュールをサポートしていないため、ユーザはアドオン モジュールにアクセスできません。
- Cisco IP Phone サービスが Cisco IP Phone モデル 7905 用に設定されている場合、ユーザはサービスにアクセスできますが、加入者サービスのパラメータは、Cisco CallManager User Options ウィンドウでユーザが選択したパラメータではなくデバイス プロファイル デフォルトを反映します。

ユーザは、Services ボタンを押し、ログアウトを選択して Cisco CallManager エクステンション モビリティからログアウトします。ユーザが自分でログアウトしない場合は、サービス パラメータを設定しておく、システムが自動的にユーザをログアウトします。あるいは、電話機の次のユーザが前のユーザをログアウトすることもできます。ログアウト後、Cisco CallManager はログアウト プロファイルを電話機に送信し、電話機を再起動します。

エクステンション モビリティの SIP サポート

Cisco CallManager エクステンション モビリティは、次の Cisco SIP IP Phone モデルをサポートしています。

- 7970G/7971G
- 7961G/41G と 7961GE/41GE(G = Gig 以外、GE = Gig)

追加情報

[P.1-30 の「関連項目」](#)を参照してください。

ログインおよびログアウトの動作

この項では、ユーザの視点からログインおよびログアウトの動作について説明します。ユーザからの質問への回答や問題の対処に、この情報を活用してください。

- 作業日の始めに電話機にログインするよう、ユーザに指示することをお勧めします。これを実行すると、ユーザ デバイス プロファイルをユーザの電話機に確実にロードできます。
- ユーザが Cisco CallManager User Options ウィンドウでプロファイルを変更した場合は、ユーザが次にログインするまで変更が適用されます。
- すでにユーザがログインしている場合は変更が適用されません。
- ログイン ユーザまたはプロファイルに関連付けられたユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、正常にログインした後、電話機は再起動後にリセットされます。これは、電話機の設定ファイルが再構築されるためです。プロファイルとデバイス間で一致しないアドオン モジュールは同じ動作をする場合があります。
- 制限時間を設定すると、Cisco CallManager エクステンション モビリティが、クラスタ全体で一定時間を過ぎたユーザを自動的にログアウトすることができます。Enforce Maximum Login Time で **True** を選択し、ログインの最長時間を指定して最長ログイン時間を設定します。

[P.1-17 の「サービス パラメータの設定」](#)を参照してください。

- サービス パラメータを設定して複数のログインを許可できます。複数のログインを許可しないように設定した場合、Cisco CallManager エクステンション モビリティは1回につき1人のユーザのログインだけをサポートします。最初のデバイスでユーザがログアウトするまで、その他のデバイスへの後続のログインはできません。
- Auto Logout が無効で、ユーザが電話機からのログアウトを忘れた場合は、システム管理者がそのユーザをログアウトできます。次のユーザがログインする時に、そのユーザをログアウトすることもできます。
- ログアウト プロファイルによっては、Cisco CallManager エクステンション モビリティ機能が設定されている Cisco IP Phone からログアウトしたユーザは、ログインしない限りその電話機からのボイスメール システムを確認できない場合があります。Messages ボタンまたはタッチトーン キーパッドのいずれかのキーを押した後にビジー音が聞こえる場合は、電話機を使用する前にログインする必要があります。
- ユーザはオフフックの電話機にログインできます。ただし、Cisco IP Phone はオンフックになるまでユーザの設定を受け入れません。ログイン後にオンフックになると、電話機に「Resetting...」メッセージが表示され、ユーザの電話設定をその電話機で使用できるようになります。
- ユーザの Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルには、呼び出し音タイプ、コントラストの設定、および音量の設定は保持されません。これらの設定は Cisco IP Phone で直接行います。
- Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザに対してアクティブになっているすべての Call Back サービスは自動的に無効となります。

追加情報

P.1-30 の「関連項目」を参照してください。

ログインのコール フロー

この項では、Cisco CallManager エクステンション モビリティのログインのイベント フローを、システムの側から説明します。コール フローを理解すると、機能に問題が発生した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

1. ユーザは Cisco IP Phone の Services ボタンを押して、ログインを要求します。この操作によって、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションの URL が呼び出されます。
2. アプリケーションによってサービスの URL が決定されます。



(注) Cisco CallManager エクステンション モビリティは、最初のインスタンスだけ Cisco CallManager Directory 内の URL を検索します。URL は、静的変数として保存されます。

3. Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションは、フォーマットした XML/HTTP クエリを Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスに送信し、その電話機の状態を判断します。サービスが XML 形式で「No one logged in.」と応答します。
4. アプリケーションがユーザにユーザ ID および PIN の入力を求めます。ユーザがユーザ ID および PIN を入力し、Submit ソフトキーを押します。
5. 電話機が HTTP 要求を実行し、アプリケーションがユーザ ID および PIN の認証を試みます。
6. ユーザ ID および PIN が認証されない場合は、電話機に「Authentication Error.」と表示されます。ユーザ ID および PIN が認証された場合は、アプリケーションが Cisco CallManager データベースをクエリーして、ユーザに関連付けられているデバイス プロファイルのリストを取得します。

- ディレクトリが応答し、ユーザのデバイス プロファイル (複数) が表示されます。リストに複数のエントリがある場合、電話機にはユーザが選択できるデバイス プロファイルが表示されません。
- ユーザがこのリストからエントリを選択すると (またはリストにエントリが 1 つだけの場合)、アプリケーションはサービス用に XML を生成します。
- アプリケーションは、生成された XML ログイン要求を HTTP 経由でサービス URL へ送信します (アプリケーションはステップ 2 でサービス URL を決定します)。
- サービスが、要求に対して定義済みの XML 形式で、成功または失敗メッセージを示すユーザ デバイス プロファイルのロードの再開で応答します。
- アプリケーションが正しい通知をデバイスに返します。電話機がユーザのデバイス プロファイルで再起動します。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ログアウトのコール フロー

この項では、Cisco CallManager エクステンション モビリティのログアウトのイベント フローを、システムの側から説明します。コール フローを理解すると、Cisco CallManager エクステンション モビリティ機能で問題が発生した場合のトラブルシューティングに役立ちます。

- ユーザは Cisco IP Phone の Services ボタンを押し、ログアウトを要求します。この操作は、Cisco エクステンション モビリティ アプリケーションの URL を呼び出します。
- アプリケーションによってサービスの URL が決定されます。



(注) Cisco CallManager エクステンション モビリティは、最初のインスタンスだけ Cisco CallManager Directory 内の URL を検索します。URL は、静的変数として保存されます。

- アプリケーションは XML を生成し、Cisco エクステンション モビリティ サービスに現在のデバイスの状態をクエリーします。
- サービスがアプリケーションに現在のデバイスの状態を返します (たとえば、「<userID> がログインしました。」)。
- アプリケーションは、ユーザにログアウトの確認をします。
- ユーザが Yes ソフトキーを押してログアウトを確認すると、アプリケーションはログアウト操作として XML を生成します。
- アプリケーションは、生成された XML ログイン要求を HTTP 経由でサービス URL へ送信します (アプリケーションはステップ 2 でサービス URL を決定します)。
- 操作が正常に終了すると、電話機が再起動され、適切なデバイス プロファイルがロードされます。障害が発生すると、メッセージが電話機に送信されます。
- アプリケーションは受け取った XML を解析し、XML 応答メッセージを作成します。
- 適合する通知として XML がデバイスに返され、電話機が再起動され、元のユーザ プロファイルまたはログアウト プロファイルがロードされます。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティのシステム要件

このバージョンの Cisco CallManager エクステンション モビリティが動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco CallManager 4.0 以降



(注)

Cisco CallManager 3.1 から、Cisco Customer Response Application (CRA) 2.2 Engine 上で動作する Cisco CallManager エクステンション モビリティが導入されています。Cisco CallManager 3.3(2) 以降では、Cisco CallManager エクステンション モビリティのアプリケーションおよび Cisco CallManager の Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスが、エクステンション モビリティの機能を提供します。この機能を利用すると Cisco CRA Engine は不要です。



(注)

Cisco CallManager 3.3(2) 以降を使用すると、Cisco CallManager がインストールされているサーバと同じサーバに Cisco CallManager エクステンション モビリティが自動的にインストールされます。追加のサーバは不要です。Cisco CallManager エクステンション モビリティは、Cisco CallManager クラスタ内のどのサーバでも実行できます。

- Cisco CallManager Administration 用に Netscape 4.7 または Internet Explorer 5.5 以降

Cisco CallManager 4.0 以降では、エクステンション モビリティ機能がほとんどの Cisco IP Phone に拡張されています。Cisco CallManager エクステンション モビリティがサポートされていることを確認するには、Cisco IP Phone モデルのマニュアルを参照してください。



(注)

Cisco CallManager エクステンション モビリティを実行している Cisco IP Phone モデル 7960 および Cisco IP Phone モデル 7960G には、Cisco 7914 拡張モジュールが備わっている場合があります。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の各項では、Cisco CallManager エクステンション モビリティが他の Cisco CallManager サービスと相互に通信する方法、および Cisco CallManager エクステンション モビリティに適用される制約事項について説明します。

- [インタラクション \(P.1-9\)](#)
- [制限事項 \(P.1-10\)](#)

インタラクション

次の項では、Cisco CallManager エクステンション モビリティが Cisco CallManager アプリケーションと通信する方法について説明しています。

- [同じサーバ上で動作する Cisco CallManager サービス \(P.1-9\)](#)
- [Bulk Administration Tool \(P.1-9\)](#)
- [Cisco IP Manager Assistant \(P.1-9\)](#)
- [Cisco CallManager Attendant Console \(P.1-10\)](#)
- [コール表示制限について \(P.1-10\)](#)

同じサーバ上で動作する Cisco CallManager サービス

Cisco CallManager エクステンション モビリティは、同じ Cisco CallManager サーバで、Cisco IP Manager Assistant (IPMA) および CDR Analysis and Reporting (CAR) とともに実行できます。

Bulk Administration Tool

Bulk Administration Tool (BAT) を使用すると、一度に複数の Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザ デバイス プロファイルを追加および削除できます。詳細については、『*Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド*』を参照してください。

追加情報

[P.1-30 の「関連項目」](#) を参照してください。

Cisco IP Manager Assistant

Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用するマネージャは、同時に Cisco IP Manager Assistant (IPMA) を使用できます。マネージャは、Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用して Cisco IP Phone にログインし、Cisco IPMA サービスを選択します。IPMA サービスが起動すると、マネージャはアシスタントおよびすべての IPMA 機能（コールフィルタリングおよびサイレントなど）にアクセスできます。Cisco IPMA の詳細については、[第2章「プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」](#) を参照してください。

Cisco CallManager Attendant Console

ユーザが Cisco CallManager Attendant Console にログインしているときに Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用して Cisco IP Phone でログインまたはログアウトする場合、Cisco IP Phone はリセットされ、Attendant Console のコール制御状態はダウンします。Cisco CallManager Attendant Console に、電話機の電話番号が変わった場合はアテンダントがログアウトして再びログインする必要があるというメッセージが表示されます。ユーザは Cisco CallManager Attendant Console からログアウトする必要があります。Cisco CallManager Attendant Console に再びログインする際、アテンダントは、Settings ダイアログボックスの Directory Number of Your Phone フィールドで電話機の現在の電話番号を指定する必要があります。

Cisco CallManager Attendant Console での電話番号の入力の詳細については、「[Cisco CallManager Attendant Console の設定項目](#)」を参照してください。

コール表示制限について

Cisco CallManager エクステンション モビリティでコール表示制限を有効にした場合、Cisco CallManager エクステンション モビリティは通常どおりに機能します。つまり、ユーザがデバイスにログインしているとき、コール情報の表示または制限は、そのユーザに関連付けられたユーザデバイス プロファイルに依存します。ユーザがログアウトすると、コール情報の表示または制限は、Phone Configuration ウィンドウでその電話機のタイプに対して定義された設定によって決まります。

Cisco CallManager エクステンション モビリティでコール表示制限を使用するには、User Device Profile Configuration ウィンドウ (P.1-22 の「[ユーザのデバイス プロファイルの作成](#)」を参照) および Phone Configuration ウィンドウ (P.1-26 の「[Cisco CallManager エクステンション モビリティへの Cisco IP Phone の登録](#)」を参照) の両方で Ignore Presentation Indicators を有効にします。

コール表示制限機能の詳細については、[第 17 章「Call Display Restrictions 機能」](#)を参照してください。

制限事項

次の制約事項は、Cisco CallManager エクステンション モビリティに適用されます。

- Cisco CallManager エクステンション モビリティは、1 つの Cisco CallManager クラスタ内の電話機でのみ動作します。
- Cisco CallManager エクステンション モビリティは、1 時間当たり最大 4500 のログイン操作とログアウト操作をサポートします。これらの操作は同時ではなく順次です。
- ユーザがログインしたときに表示される文字は、電話機の現在のロケールによって異なります。たとえば、電話機が English ロケールを使用している場合（電話機のログアウト プロファイルに基づく）、ユーザ ID には英字のみを入力できます。
- ログイン ユーザまたはプロファイルに関連付けられたユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、正常にログインした後、電話機は再起動後にリセットされます。これは、電話機の設定ファイルが再構築されるためです。プロファイルとデバイス間で一致しないアドオン モジュールは同じ動作をする場合があります。
- Cisco CallManager エクステンション モビリティにログインするには、物理的な Cisco IP Phone が必要です。Cisco CallManager エクステンション モビリティで設定されているオフィスの電話機のユーザは、自分の電話機にリモートでログインできません。
- Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザに対してアクティブになっているすべての Call Back サービスは自動的に無効となります。
- ユーザ ID フィールドのエントリ (エクステンション モビリティへのログイン時に入力した ID) には小文字のみを使用できます。

- Cisco CallManager Release 4.x から Cisco CallManager Release 5.0 への移行が終了した後、ユーザが初めてログインするまで、前回のログイン ユーザ ID は電話機に表示されません。サービスパラメータ「Remember Last Login」が **True** に設定されていると、ユーザが電話機にログインするたびに Cisco エクステンション モビリティは前回のログイン ユーザ ID を表示します。この表示は、ハードディスク上のファイルに基づいて行われます。Release 4.x から Release 5.0 への移行では、このファイルはデータベースに移行されないため、前回のログイン ユーザのユーザ ID は表示されません。
- Cisco エクステンション モビリティが停止または再起動された場合、ログイン済みのユーザは、ログアウト間隔が満了しても自動ログアウトされません。この場合、電話機では自動ログアウトが 1 日に 1 度だけ行われます。このようなユーザについては、電話機または Cisco CallManager Administration から手動でログアウトできます。

Cisco CallManager エクステンションモビリティの初めてのインストール

Cisco CallManager 4.0 以降をインストールする場合は、クラスタ内の各サーバに Cisco IP Telephony Locale Installer もインストールする必要があります。Locale Installer をインストールすると、ユーザウィンドウおよび電話機のディスプレイで、最新の翻訳されたテキストを利用できます。詳細については、Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアルを参照してください。

次に、P.1-12 の「Cisco CallManager エクステンションモビリティの設定」の手順を実行します。

追加情報

P.1-30 の「関連項目」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定

機能を設定する前に、「設定のガイドライン」を参照してください。デバイス プロファイルの役割については、P.1-2 の「デバイス プロファイルについて」を参照してください。P.1-13 の「Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト」に示されている順に、設定手順を実行します。

- 設定のガイドライン (P.1-12)
- 設定の例 1 (P.1-13)
- 設定の例 2 (P.1-13)
- Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト (P.1-13)

設定のガイドライン

Cisco CallManager エクステンション モビリティを配置する際に起こる不具合を避けるために、必ず設定のガイドラインに従ってください。

- Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートさせるクラスタ内の各 Cisco IP Phone モデルに対してデバイス プロファイルのデフォルトを設定します。
- Cisco CallManager クラスタ内のすべての電話機で Cisco CallManager エクステンション モビリティを有効化するには、これらの電話機をユーザが制御できないようにします。
 - このシナリオでは、ユーザが Cisco CallManager User Options ウィンドウにアクセスしてサービスを変更する場合、必ず Select a device to configure ドロップダウンリストボックスから Device Profiles を選択する必要があります。ユーザは、個人の電話機の制御も設定の変更もできません。
 - 管理者は、Cisco CallManager Administration を使用して電話機のサービスを変更できます。変更後、メイン ウィンドウ (ポップアップメニューではない) で更新する場合は、電話機をリセットして変更内容を有効にする必要があります。この操作を行うと、新しいスナップショットが確実にログアウト プロファイルとして保存されます。



(注) Enterprise パラメータ「Synchronization between Auto Device Profile and Phone Configuration」が True に設定されている場合、自動生成されたデバイス プロファイルは自動的に更新されます。メイン ウィンドウで更新する必要はありません。

- 特定のユーザがデバイス (たとえば、オフィスの電話機) を制御する場合、他のユーザがそのデバイスにログインできないようにします。



注意

ユーザが割り当てられている電話機に、他のユーザによるアクセスを許可すると、Cisco CallManager エクステンション モビリティ機能が正常に動作しない場合があります。

追加情報

P.1-30 の「関連項目」を参照してください。

設定の例 1

代表的な Cisco CallManager エクステンション モビリティのシナリオは、次のとおりです。

- 従業員はすべて Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザである。
- すべてのユーザにユーザ デバイス プロファイルがある。
- ユーザは個人の電話機を制御できず、電話機の設定も変更できない。
- ユーザは電話機を使用する前にログインする必要がある。
- ユーザは、ロビーの電話機、会議室の電話機、および個室の電話機など共用を目的とする共通デバイスにアクセスできる。
- ユーザが Cisco CallManager User Options ウィンドウにアクセスしてサービスまたは短縮ダイヤルを変更する場合、デバイス プロファイルは「Select a device to configure」ドロップダウンメニューでのみ選択できる。この方法により、どの Cisco IP Phone にログインしても、ユーザがサービスに対して行った変更が適用されます。

設定の例 2

もう一つの代表的な Cisco CallManager エクステンション モビリティのシナリオは、次のとおりです。

- 各ユーザには割り当てられた電話機がある。
- 各ユーザには、どのデバイスにログインしても適用されるデバイス プロファイルがある。
- 各ユーザは、ロビーの電話機、会議室の電話機、および個室の電話機など共用に設定されている共通デバイスにアクセスできる。
- このシナリオでは、他の人の割り当てられている電話機を使用できません。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト

表 1-1 に示す手順に従って、Cisco CallManager エクステンション モビリティを設定します。

表 1-1 の要約ステップでは、Cisco CallManager Administration で Cisco CallManager エクステンション モビリティを設定するための主な作業を示しています。詳細な指示については、関連手順と関連項目に示す手順に従ってください。

表 1-1 Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト




	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1	<p>Cisco CallManager Serviceability Administration の Service Activation を使用して、次の Cisco エクステンション モビリティ サービスを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager エクステンション モビリティ • Cisco CallManager Cisco IP Phone サービス <p> (注) 任意のノードでエクステンションモビリティ サービスを無効にするには、まず Service Activation でこのサービスを無効にする必要があります。</p> <p> (注) Cisco エクステンション モビリティ サービスの有効化または無効化時に、いずれかのノードで変化があると、データベーステーブルでサービス URL の構築に必要な情報が更新されます。また、エクステンション モビリティ サービス パラメータが変更されたときにもデータベース テーブルが更新されます。変更通知は EApp サービスで処理されます。</p>	Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド
ステップ 2	<p>Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスを作成します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Device > Device Settings > Phone Services の順に選択します。 • サービスの名前を入力します (エクステンション モビリティ サービス、EM など)。 • 次の URL を入力します。 http://<エクステンション モビリティ サーバの IP アドレス>:8080/emapp/EAppServlet?device=#DEVICENAME# <p> (注) URL を誤入力して電話機に誤ったサービスを登録した場合は、URL を訂正し、それを保存して Update Subscriptions を押します。または、URL を訂正し、誤ったサービスを登録した電話機を 1 台ずつ再登録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Save をクリックします。 	Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスの追加 (P.1-16)
ステップ 3	管理パラメータを設定します。	サービス パラメータの設定 (P.1-17)
ステップ 4	Cisco エクステンション モビリティをサポートさせる電話機モデルごとに、デバイス プロファイル デフォルトを作成します。	各 Cisco IP Phone モデルのデバイス プロファイル デフォルトの作成 (P.1-19)

表 1-1 Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト (続き)

	設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5	<p>ユーザのデバイス ユーザ プロファイルを作成します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Device > Device Settings > Device Profile の順に選択し、Add New をクリックします。 • デバイス タイプを入力します。 • デバイス プロファイル名を入力し、電話ボタン テンプレートを選択し、Save をクリックします。 • 電話番号 (DN) と必要な情報を入力し、Save をクリックします。これをすべての電話番号について繰り返します。 	<p>ユーザのデバイス プロファイルの作成 (P.1-22)</p>
ステップ 6	<p>ユーザにユーザ デバイス プロファイルを関連付けます。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • User Management > End User の順に選択し、Add New をクリックして、ユーザ情報を入力します。 • Available Profiles で、ステップ 2 で作成したサービスを選択し、下矢印をクリックします。選択したサービスが Controlled Profiles ボックスに表示されます。 • Save をクリックします。 	<p>ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け (P.1-25)</p>
ステップ 7	<p>Cisco IP Phone とユーザ デバイス プロファイルを設定し、Cisco エクステンション モビリティに登録します。</p> <p>要約ステップは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話機とそのユーザ デバイス プロファイルを Cisco エクステンション モビリティに登録します。 • Device > Phone の順に選択し、Add New をクリックします。 • Phone Configuration ウィンドウの Extension Information で Enable Extension Mobility をチェックします。 • Logout Profile で Use Current Device Settings を選択し、Save をクリックします。 	<p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone の設定」</p> <p>Cisco CallManager エクステンション モビリティへの Cisco IP Phone の登録 (P.1-26)</p>

Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスの追加

Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスを新しい Cisco IP Phone サービスとして追加します。Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスの名前、説明、および URL を設定します。

Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスを追加するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Device > Device Settings > Phone Services** の順に選択します。

ステップ 2 **Add New** をクリックします。

ステップ 3 Service Name フィールドに、サービスの名前を入力します。

この名前は、ユーザが **Services** ボタンを押したときに電話機に表示されます。「Extension Mobility」や「EM」のように分かりやすい名前を入力します。

ステップ 4 次の例に示すように、Service URL フィールドに入力します。

`http://<IP アドレス>:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#`

エクステンション モビリティ サーバの IP アドレスは、Cisco CallManager エクステンション モビリティ アプリケーションがアクティブ化され、実行されている Cisco CallManager の IP アドレスです。

次の例を参考にしてください。

`http://123.45.67.89:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#`



ヒント Cisco IP Phone サービスに冗長性を持たせるには、IP アドレスではなくホスト名を使用する Cisco IP Phone サービスを作成します。電話機のソフトキー機能とフィルタリング機能は、電話機サービスと同様に、必要に応じて自動的にフェールオーバーします。

ステップ 5 **Save** をクリックします。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サービス パラメータの設定

サービス パラメータを設定して、Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスが Cisco CallManager クラスタでどのように機能するかを定義します。これらの設定は、次のように使用できます。

- 最長ログイン時間を有効化し、定義する。
- 複数ログインの動作について、ユーザが同時に複数のデバイスにログインすることを許可するかどうかを定義する。
- 「remember last user logged in」を有効化する。
- 手動による Cisco CallManager エクステンション モビリティのログインおよびログアウト時にコール ログ（発信、受信、および不在着信）をクリアする。前のユーザのコール ログをクリアするには、「Clearing call logs」サービス パラメータを使用します。このパラメータを使用することにより、プライバシーが確保され、同じ電話機を使用するユーザに他のユーザのコールが表示されないようになります。



(注)

Cisco CallManager 4.0 以降では、Service Parameters ウィンドウでトレース ディレクトリの有効化や Cisco CallManager エクステンション モビリティのトレースのデバッグは実行しません。代わりに、Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションを使用します。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



ヒント

この手順を実行する前に、Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスがアクティブになっていることを確認してください。サービスをアクティブにしていないと、サービス パラメータは表示されません。Cisco CallManager Serviceability ツールの Service Activation の使用方法については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティのサービス パラメータを設定するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**System > Service Parameters** を選択します。

Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Server ドロップダウン メニューから、Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスを実行しているサーバを選択します。

ステップ 3 Service ドロップダウン メニューから、**Cisco Extension Mobility** を選択します。

新しい Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Enforce Maximum Login Time フィールドで、**True** を選択し、クラスタ全体のログインの最長時間を指定します。この時間を超えると、システムは自動的にデバイスをログアウトします。

False を選択すると、クラスタ全体のログインの最長時間が存在しないことになります。

デフォルト値は False に設定されています。

**ヒント**

自動ログアウトを設定するには、**ステップ 4**で **True** を選択し、**ステップ 5**でシステムの最長ログイン時間を指定する必要があります。この設定を行うと、Cisco CallManager はすべてのログインに対して自動ログアウトを行います。

ステップ 5 **ステップ 4**で Maximum Login Time フィールドに True を指定した場合は、最長ログイン時間を時：分の形式で 0:01 ~ 168:00（1分～1週間）の範囲に設定します。

デフォルト値は 8:00（8時間）に設定されています。

ステップ 6 Maximum Concurrent Requests フィールドで、同時に実行できるログインまたはログアウト操作の最大回数を指定します。この設定は、Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスによるシステム リソースの過剰な消費を防ぐためのものです。

ステップ 7 Multi Login Behavior フィールドで、次のいずれかの応答を選択します。

- Multiple Logins Allowed : 1人のユーザが同時に複数のデバイスにログインできます。
- Multiple Logins Not Allowed : 1人のユーザが一度ログインに成功すると、2台目以降のログインに失敗します。
- Auto Logout : 1人のユーザが2台目のデバイスにログインすると、Cisco CallManager は、最初にユーザがログインしたデバイスから自動的にユーザをログアウトします。

デフォルト値は Multiple Logins Not Allowed に設定されています。

ステップ 8 Alphanumeric Userid フィールドで **True** を選択して、ユーザ ID に英数字を使用できるようにします。False を選択すると、ユーザ ID に使用できる文字は数字だけになります。

デフォルト値は True に設定されています。

**(注)**

Alphanumeric UserID パラメータはシステム全体に適用されます。英数字のユーザ ID と数字のユーザ ID を混合して持つことができます。システムは、英数字のキーパッドを使用して入力できるユーザ ID だけをサポートします。大文字と小文字が区別されるユーザ ID フィールドでは、小文字を使用してください。

ステップ 9 Remember last user logged in フィールドで、デフォルト値の **False** を選択します。

通常のホテルのシナリオでは、複数のユーザがあらゆるオフィスであらゆる電話を一時的に使用する可能性があるため、このパラメータを False に設定する必要があります。

True に設定すると、エクステンション モビリティ アプリケーションは、電話機にログインした最後のユーザのユーザ ID を記憶します。この設定は、個々人が日常的に自分の電話機を使用し、他の人がその電話機を使用しない場合に使用してください。

たとえば、Cisco CallManager エクステンション モビリティは、電話機から使用できるタイプのコールを有効にする場合に使用できます。ログインしていない個人とオフィスの電話を使用している個人がかけられるのは内部通話または緊急通話だけになります。ただし、Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してログインすると、ユーザはローカル通話、長距離通話、国際通話をかけることができます。このシナリオでは、このユーザだけが電話機に定期的にログインします。この場合、ログインした最後のユーザ ID を記憶するよう Cisco CallManager エクステンション モビ

リティを設定するのは妥当なので、フィールドを **True** に設定します。このフィールドを **True** に設定すると、最後に正常にログインしたユーザのユーザ ID が Cisco CallManager エクステンション モビリティで記憶され、その後のすべてのログインでそのユーザ ID が自動的に入力されます。

ステップ 10 Clear the call log フィールドで **True** を選択し、Cisco CallManager エクステンション モビリティへの手動によるログイン/ログアウト プロセスで、コール ログをクリアすることを指定します。

ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスを IP Phone で使用している場合は、すべてのコール（発信、受信、エラー）がコール ログに記録され、IP Phone に表示されます。同じ電話機を使用するユーザに前回のユーザのコール ログを表示しないようにしてプライバシーを確保するには、「Clear the call log service」パラメータを **True** に設定します。この設定により、正常にログイン/ログオフしたユーザのコール ログが確実にクリアされます。



(注)

コール ログがクリアされるのは、手動による Cisco CallManager エクステンション モビリティのログイン/ログアウト時だけです。Cisco CallManager エクステンション モビリティのログアウトが自動ログアウトで行われた場合や手動以外の方法で行われた場合、コール ログはクリアされません。

ステップ 11 Save をクリックします。



ヒント

Service Parameters ウィンドウから別のサーバを選択することができます。あるいは、**Related Links** ドロップダウン リスト ボックスから **Parameters for All Servers** を選択し、**Go** をクリックして、クラスタ内にある全サーバのサービス パラメータのリストを表示することもできます。**Parameters for All Servers** ウィンドウに、クラスタ内で同期がとれていないサービス パラメータがあるかどうかを確認できる場所、およびクラスタ内で変更されたサービス パラメータだけを表示できる場所が示されます。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

各 Cisco IP Phone モデルのデバイス プロファイル デフォルトの作成

Cisco CallManager 4.0 以降では、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートさせる Cisco IP Phone モデルごとにクラスタ全体のデバイス プロファイル デフォルトを設定できます。ユーザがユーザ デバイス プロファイルを持たない電話機モデルにログインした場合、電話機は必ずデバイス プロファイル デフォルトを使用します。

デバイス プロファイル デフォルトの機能の詳細については、P.1-3 の「[Cisco CallManager エクステンション モビリティの概要](#)」を参照してください。

電話機モデルのデバイス プロファイル デフォルトを追加するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Device > Device Settings > Default Device Profile** を選択します。

Default Device Profile Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルを作成するデバイス (Cisco IP Phone など) を選択します。
- ステップ 3** Next をクリックします。
- ステップ 4** 必要に応じて、Select the device protocol ドロップダウン リスト ボックスからプロトコルを選択します。
- ステップ 5** Next をクリックします。
- ステップ 6** User Hold Audio Source フィールドで、ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザが保留動作を開始した場合に再生するオーディオ ソースを選択します。

オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager はデバイス プールで定義されたオーディオ ソースを使用するか、デバイス プールでオーディオ ソース ID が定義されていない場合はシステム デフォルトを使用します。



ヒント オーディオ ソースは Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで定義します。アクセスするには、**Service > Music On Hold** を選択します。

- ステップ 7** User Locale ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のユーザ インターフェイスに関連するロケールを選択します。

ユーザ ロケールは、言語やフォントなど、ユーザをサポートする一連の詳細情報を示します。Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルでだけこのフィールドを使用可能にします。



(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。



(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示するよう要求する場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認してください。Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアルを参照してください。

- ステップ 8** Phone Button Template フィールドで、適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。電話機ボタン テンプレートは、Cisco IP Phone 上のソフトキーの設定を決定します。デバイス プールに割り当て済みのソフトキー テンプレートがある場合、このフィールドは空白にしておいてください。
- ステップ 9** プライバシーの確保が必要な電話機それぞれに対して、Privacy ドロップダウン リスト ボックスから **On** を選択します。設定情報の詳細については、P.8-1 の「**割り込みとプライバシー**」を参照してください。

ステップ 10 コール表示制限を設定し、内部コールに関して受け取る表示制限を無視するには、Ignore Presentation Indicators (internal calls only) チェックボックスをオンにします。



(注) この設定は、変換パターン レベルでの発信側の回線 ID 表示および接続側の回線 ID 表示の設定と組み合わせて使用します。また、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、第 17 章「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。

ステップ 11 電話機モデルが Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールをサポートしている場合、Cisco CallManager は拡張モジュール フィールドを表示します。

- a. Module 1 ドロップダウン リスト ボックスで、7914 14 ボタン拡張モジュールを 1 つ選択するか、まったく選択しません。
- b. Module 2 ドロップダウン リスト ボックスで、7914 14 ボタン拡張モジュールを 1 つ選択するか、まったく選択しません。

ステップ 12 Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報を設定するには、次の手順を実行します。



(注) 詳細については、P.13-1 の「Multilevel Precedence and Preemption」を参照してください。

- a. MLPP Domain で、このデバイス プロファイルに関連する MLPP ドメインを表す 16 進値を入力します。値は空白または 0 ~ FFFFFFF にする必要があります。
- b. MLPP Indication 設定が使用可能な場合は、デバイスが MLPP 優先コールをかけたときにこの機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- **Default** : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を継承します。
- **Off** : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信しません。
- **On** : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信します。



(注) デバイス プロファイルのデフォルトは、MLPP Indication が *Off* で MLPP Preemption が *Forceful*、という組み合わせに設定しないでください。

- c. MLPP Preemption 設定が使用可能な場合は、進行中のコールを差し替えることのできるデバイスが MLPP 優先コールをかけたときに、この機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- **Default** : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を継承します。
- **Disabled** : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えません。
- **Forceful** : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えます。



(注) デバイス プロファイルのデフォルトは、MLPP Indication が *Off* で MLPP Preemption が *Forceful*、という組み合わせに設定しないでください。

ステップ 13 Save をクリックします。

追加情報

P.1-30 の「関連項目」を参照してください。

ユーザのデバイス プロファイルの作成

デバイス プロファイルには、名前、説明、電話機のテンプレート、アドオン モジュール、電話番号、登録サービス、および短縮ダイヤルの情報といった属性が含まれています。



(注) 手順を進める前に、デバイス プロファイル名および電話機のボタン テンプレート (複数) が設定されていることを確認してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティの新規ユーザ用にデフォルトのデバイス プロファイルを追加する場合は、次の手順に従います。



(注) Device Profile Configuration ウィンドウで BLF 短縮ダイヤル ボタンを設定すると、そのデバイスにログイン後、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートするデバイスに、BLF 短縮ダイヤル ボタンの状態をリアルタイムに表示できます。つまり、そのデバイス プロファイルに適用されるプレゼンス グループにより、プレゼンス エンティティの状態を見ることができます。詳細については、「プレゼンス」の章を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Device > Device Settings > Device Profile** を選択します。

Find and List Device Profiles ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Add New** をクリックします。

Device Profile Configuration ウィンドウが表示されます。

Device Type ドロップダウン リスト ボックスからデバイス タイプを選択し、**Next** をクリックします。

必要に応じて、Select the device protocol フィールドでプロトコルを選択します。

Next をクリックします。

ステップ 3 User Device Profile Name フィールドに、任意のデバイス プロファイル名を入力します。プロファイル名には、「Extension Mobility」など、特定のユーザ デバイス プロファイルを表すテキストを自由に設定できます。

ステップ 4 User Locale ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のユーザ インターフェイスに関連するロケールを選択します。

ユーザ ロケールは、言語やフォントなど、ユーザをサポートする一連の詳細情報を示します。Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルでだけこのフィールドを使用可能にします。



(注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。



(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示するよう要求する場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認してください。Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアルを参照してください。

ステップ 5 Phone Button Template フィールドで、適切な電話機ボタン テンプレートを選択します。電話機ボタン テンプレートは、Cisco IP Phone 上のソフトキーの設定を決定します。デバイス プールに割り当て済みのソフトキー テンプレートがある場合、このフィールドは空白にしておいてください。

ステップ 6 Softkey Template ドロップダウン リスト ボックスで、ソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 7 プライバシーの確保が必要な電話機それぞれに対して、Privacy ドロップダウン リスト ボックスから **On** を選択します。設定情報の詳細については、P.8-1 の「[割り込みとプライバシー](#)」を参照してください。

ステップ 8 コール表示制限機能を有効にするには、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにします。



(注) コール表示制限機能を有効にするには、User Device Profile ウィンドウと Phone Configuration ウィンドウ (P.1-26 の「[Cisco CallManager エクステンション モビリティへの Cisco IP Phone の登録](#)」を参照) の両方で、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにします。

ステップ 9 電話機モデルが Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールをサポートしている場合、Cisco CallManager は拡張モジュール フィールドを表示します。Module 1 ドロップダウン リスト ボックスおよび Module 2 ドロップダウン リスト ボックスで、7914 14 ボタン拡張モジュールを1つ選択するか、まったく選択しません。



(注) 電話機ボタンのテンプレート フィールドの隣にある View ボタン リストのリンクを選択すると、電話機ボタンのリストをいつでも表示できます。ポップアップ ウィンドウが表示され、特定の拡張モジュールの電話機ボタンが表示されます。

ステップ 10 Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報を設定するには、次の手順を実行します。



(注) 詳細については、P.13-1 の「[Multilevel Precedence and Preemption](#)」を参照してください。

- a. MLPP Domain で、このデバイス プロファイルに関連する MLPP ドメインを表す 16 進値を入力します。値は空白または 0 ~ FFFFFFF にする必要があります。
- b. MLPP Indication 設定が使用可能な場合は、デバイスが MLPP 優先コールをかけたときにこの機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- **Default** : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を継承します。
- **Off** : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信しません。
- **On** : このデバイスは、MLPP 優先コールのインジケータを送信します。



(注) デバイス プロファイルのデフォルトは、MLPP Indication が *Off* で MLPP Preemption が *Forceful*、という組み合わせに設定しないでください。

- c. MLPP Preemption 設定が使用可能な場合は、進行中のコールを差し替えることのできるデバイスが MLPP 優先コールをかけたときに、この機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てる設定を選択します。

- **Default** : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を継承します。
- **Disabled** : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えません。
- **Forceful** : このデバイスは、MLPP 優先コールをかけたときに、進行中のコールを差し替えます。



(注) デバイス プロファイルのデフォルトは、MLPP Indication が *Off* で MLPP Preemption が *Forceful*、という組み合わせに設定しないでください。

ステップ 11 Login User Id ドロップダウン リスト ボックスからユーザ ID を選択します。

Save をクリックします。

ページが更新されます。

ステップ 12 Association Information セクションで Add a new DN リンクをクリックします。

ステップ 13 Directory Number フィールドに電話番号を入力し、**Save** をクリックします。

フィールドの説明については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定値」を参照してください。

ステップ 14 次のプロンプトが表示されます。Changes to Line or Directory Number settings require restart.

Reset をクリックし、プロンプトの指示に従います。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け

物理的なデバイスに関連付けるときと同じ方法で、ユーザ デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』の「新規ユーザの追加」を参照してください。



ヒント

Bulk Administration Tool (BAT) を使用すると、一度に複数の Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザ デバイス プロファイルを追加および削除できます。詳細については、『Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド』を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルを、Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザに関連付けるには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** **Add New** をクリックします。
- ステップ 3** 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定値」の説明に従って設定を入力します。
- ステップ 4** 変更を保存し、ユーザを追加するには、**Save** をクリックします。



(注) 既存のエンドユーザを選択するには、**Find** をクリックし、ユーザ デバイス プロファイルに関連付けるエンドユーザを選択します。『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの検索」を参照してください。

追加情報

P.1-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティへの Cisco IP Phone の登録

始める前に

電話機を Cisco CallManager エクステンション モビリティに登録する前に、Cisco CallManager で Cisco IP Phone を設定する必要があります。電話機の設定については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone の設定」を参照してください。

デバイス プロファイルについては、P.1-2 の「デバイス プロファイルについて」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティサービスに登録するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration で、**Device > Phone** を選択します。

ステップ 2 **Add New** をクリックします。



(注) 設定されている電話機は、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の検索」の説明に従って、検索および更新することもできます。

Add a New Phone ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Phone Type ドロップダウン リスト ボックスから、エクステンションモビリティに登録する電話機のタイプを選択し、**Next** をクリックします。

ステップ 4 Select the device protocol ドロップダウン リスト ボックスから電話機のプロトコルを選択し、**Next** をクリックします。

ステップ 5 Extension Information で、Enable Extension Mobility チェックボックスをオンにします。



(注) すべてのフィールドについては、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の設定値」を参照してください。

ステップ 6 Log Out Profile ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機でエクステンション モビリティに使用するプロファイルのタイプを選択します。

特定の設定済みプロファイルを選択する場合は、**ステップ 7**に進みます。それ以外の場合は、**ステップ 11**に進みます。

ステップ 7 Log Out Profile ドロップダウン リスト ボックスから Select a User Device Profile を選択します。



(注) Select a User Device Profile または Use Current Device Settings を選択できます。Use Current Device Settings を選択すると、ログアウト時に自動化されたデバイス プロファイルが使用されます。

UserDevice ProfileConfiguration ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 User Device Profile Name ドロップダウン リスト ボックスからユーザ デバイス プロファイルを選択します。

ステップ 9 **Close and go Back** をクリックします。

この操作は、Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがない場合にデバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。ログアウトが実行されると、現在の設定（ユーザ デバイス プロファイル）が、自動生成されたデバイス プロファイル（デフォルトのデバイス プロファイル）に置き換わります。



(注) デフォルトのデバイス プロファイルには、自動生成されたデバイス プロファイルを使用し、ユーザ デバイス プロファイルを割り当てないことを強くお勧めします。

その他のフィールドには、デバイスのログイン ステータスに関する現在のデバイス情報（Log in UserID、Log In Time、Log Out Time）が表示されます。

ステップ 10 Cisco CallManager Phone Configuration ウィンドウで、Call Party Restrictions 機能を有効にするには、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにします。



(注) Call Display Restrictions 機能を有効にするには、Phone Configuration ウィンドウと User Device Profile ウィンドウ（P.1-22 の「ユーザのデバイス プロファイルの作成」を参照）の両方で Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにします。この機能の詳細については、「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

ステップ 11 **Save** をクリックします。

ここで、作成したエクステンション モビリティ IP Phone サービスを、P.1-19 の「各 Cisco IP Phone モデルのデバイス プロファイル デフォルトの作成」で作成したデバイス プロファイルと IP Phone ターゲット デバイスの両方に登録する必要があります。

ステップ 12 エクステンション モビリティを IP Phone に登録するには、ウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスで Subscribe/Unsubscribe Services を選択し、**Go** をクリックします。

Subscribed Cisco IP Phone ウィンドウが、別のウィンドウで表示されます。

ステップ 13 Select a Service ドロップダウン リスト ボックスから、この IP Phone を登録するサービスを選択します。

ステップ 14 **Next** をクリックします。

ステップ 15 **Subscribe** をクリックします。

ステップ 16 新しいサービスが Subscribed Services に表示されます。

ステップ 17 **Save** をクリックします。

ステップ 18 この IP Phone を登録するすべてのサービスについて、この手順を繰り返します。

ステップ 19 サービスを登録解除するには、**Unsubscribe**、**Save** の順にクリックします。



(注) デバイス プロファイルにサービスを登録または登録解除する方法については、[P.1-19](#) の「各 [Cisco IP Phone モデルのデバイス プロファイル デフォルトの作成](#)」を参照してください。

これで Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定が完了しました。

追加情報

[P.1-30](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザへの情報提供

Cisco CallManager エクステンション モビリティのシステムを設定した後、電話機のユーザに次の情報を提供します。

- 機能通知の Availability と、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機モデル。Cisco CallManager エクステンション モビリティ機能に付けた名前（たとえば、エクステンション モビリティ）を含みます。さらに、Cisco CallManager クラスタ内のいずれかのノードでエクステンション モビリティサービスを有効または無効にしたことに関する、変更の通知も提供します。
- ユーザのパスワード、ユーザ ID、および PIN。
- ユーザパスワードと PIN の変更使用するユーザの Cisco CallManager User Options ウィンドウの URL。



(注) ユーザパスワードと PIN に使用できるのは、IP Phone でサポートされている文字だけであることに注意してください。サポートされているのは、数字 0 ~ 9 と対応する文字、アスタリスク (*)、およびナンバー記号つまりシャープ記号 (#) です。

- Cisco CallManager エクステンション モビリティの概要およびログイン、ログアウト、機能のトラブルシューティングの手順が記載されている電話機モデルのユーザガイド。
- Cisco IP Options Web ページの使用法に関する情報を含む『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』。
- [P.1-17 の「サービスパラメータの設定」](#) で定義した、ログインおよびログアウト動作の機能説明。

追加情報

[P.1-30 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの導入 \(P.1-2\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの概要 \(P.1-3\)](#)
- [ログインおよびログアウトの動作 \(P.1-5\)](#)
- [ログアウトのコールフロー \(P.1-7\)](#)
- [ログインのコールフロー \(P.1-6\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティのシステム要件 \(P.1-8\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.1-9\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの初めてのインストール \(P.1-11\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定 \(P.1-12\)](#)
- [設定の例 1 \(P.1-13\)](#)
- [設定の例 2 \(P.1-13\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティの設定チェックリスト \(P.1-13\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ サービスの追加 \(P.1-16\)](#)
- [サービス パラメータの設定 \(P.1-17\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティへの Cisco IP Phone の登録 \(P.1-26\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティのユーザへの情報提供 \(P.1-29\)](#)

デバイス プロファイル

- [デバイス プロファイルについて \(P.1-2\)](#)
- [ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け \(P.1-25\)](#)
- [ユーザのデバイス プロファイルの作成 \(P.1-22\)](#)